

大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る

事後調査報告書

(平成 29 年 5 月分【護岸建設工事中・埋立中の共通調査②】)

【陸域生態系（鳥類）】

国土交通省 近畿地方整備局

大阪市港湾局

大阪湾広域臨海環境整備センター



# 目 次

## I 事後調査の概要

1. 調査概要	.....	I - 1
2. 工事の実施状況	.....	I - 2
3. 調査結果の概要	.....	I - 3

## II 事後調査結果

1. 陸域生態系（鳥類）	.....	II - 1
--------------	-------	--------



## I 事後調査の概要

## 1. 調査概要

平成 29 年 5 月（陸域生態系（鳥類））の事後調査の概要は表-1 に、調査地点の位置は図-1 に示すとおりである。

なお、「大阪湾新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査計画」に基づく調査として平成 29 年度は平成 29 年 5 月、6 月、8 月、平成 30 年 2 月に実施する。

表-1 事後調査の概要（平成 29 年 5 月）

### 埋立地周辺における調査

(1) 陸域生態系（鳥類）表-1

調査項目	調査地点・範囲	調査期間等	調査頻度
鳥類の生息状況	4 点 [a, b, c, d]	5 月 11 日	4 回/年

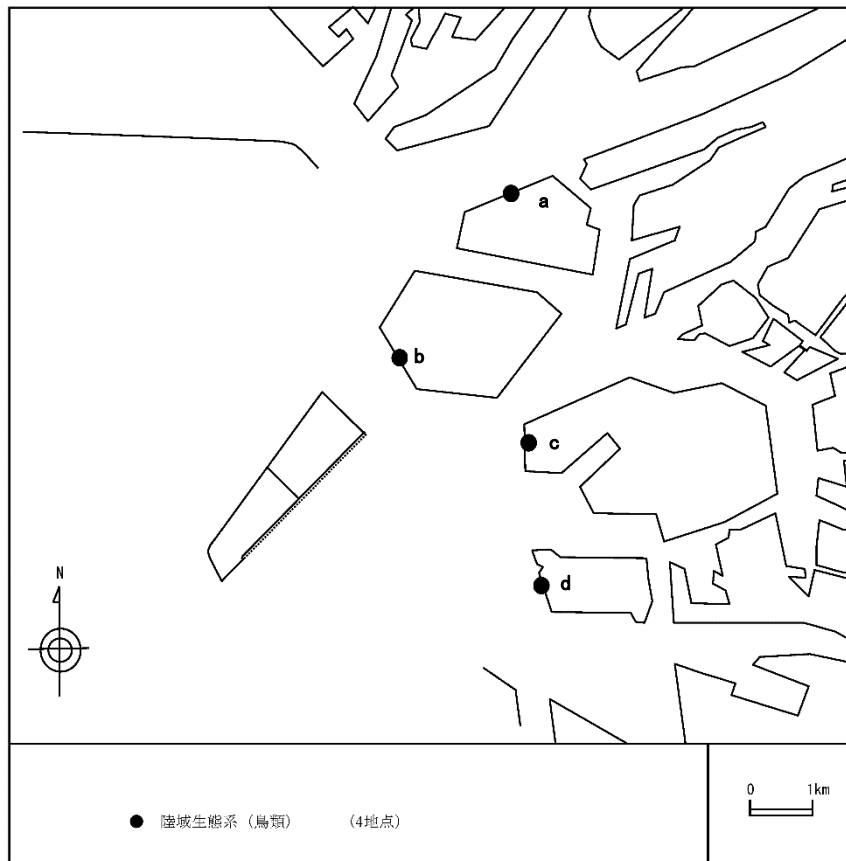
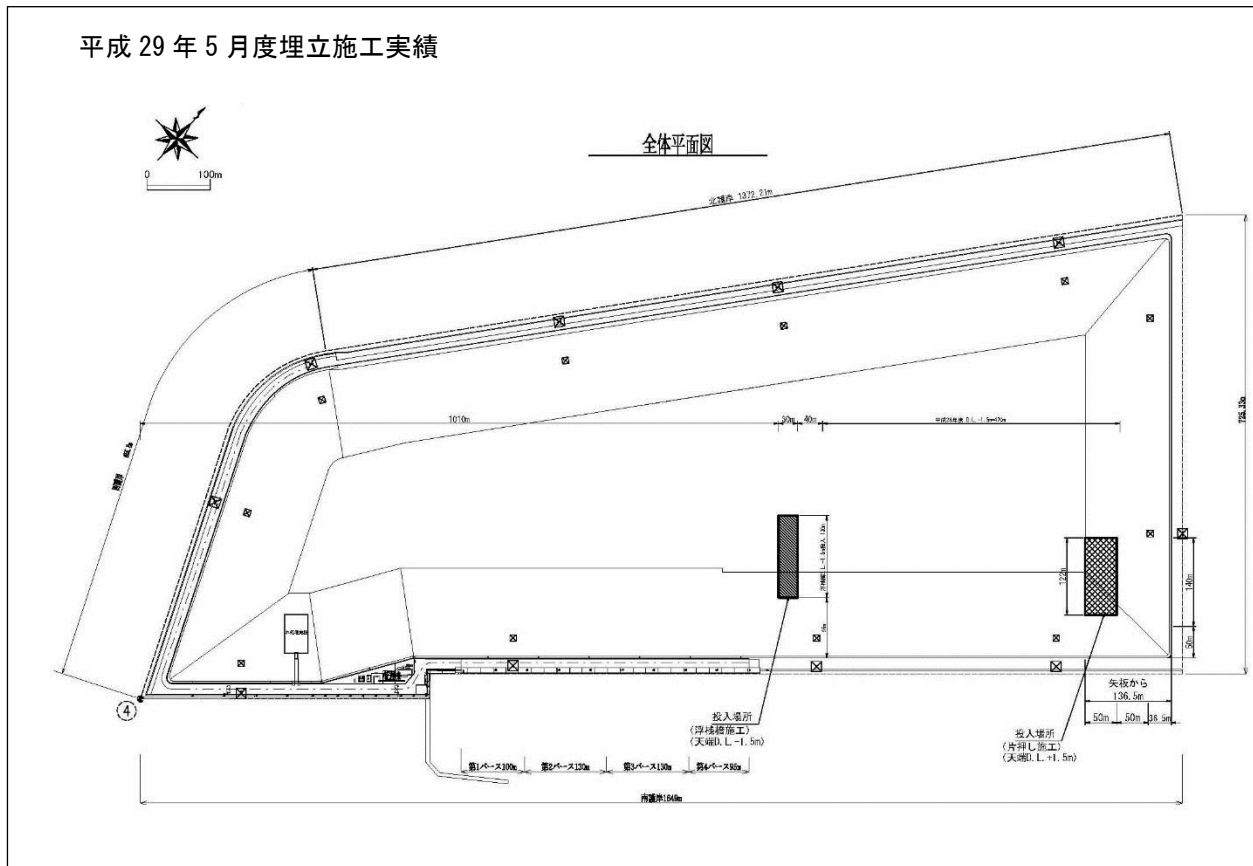


図-1 陸域生態系（鳥類）の調査地点（平成 29 年 5 月）

## 2. 工事の実施状況

平成 29 年 5 月の工事の実施状況は、図-2 に示すとおりである。

大阪沖処分場平面図



埋立量 (m <sup>3</sup> )	進捗率 (%)
4,141,187	29.6

埋立容量(計画量) : 13,975,000 m<sup>3</sup>

図-2 工事の実施状況 (平成 29 年 5 月)

### 3. 調査結果の概要

#### 埋立地周辺における調査

##### (1) 陸域生態系（鳥類）〔陸域生態系（鳥類）様式第1～3号（埋立地関連）〕

鳥類の出現種類数は、4地点合計で9目20科47種であった。

調査地点別の出現個体数についてみると、調査地点bが最も多く303羽であり、次いで調査地点dの113羽、調査地点aの82羽、調査地点cの70羽の順であった。

調査地点別の出現種類数についてみると、調査地点bが最も多く31種であり、次いで調査地点cの22種、調査地点aの16種、調査地点dの10種の順であった。

個体数が最も多かった調査地点bにおける主要な出現種は、アジサシ（チドリ目カモメ科）、スズガモ（カモ目カモ科）、ツクシガモ（カモ目カモ科）、カワウ（ペリカン目ウ科）、ユリカモメ（チドリ目カモメ科）であった。

事業実施前（平成10年5月：調査地点の位置は、平成29年度調査の調査地点に同じ）に実施した鳥類調査の結果は、4地点合計で10目21科37種であり、事業実施前と比べて多くの種類が確認された。

事業実施前調査結果を表-2に示す。

陸域生態系（鳥類）表-2 事業実施前調査結果

区分		平成9年8月	平成10年2月	平成10年5月	平成10年6月			
出現状況	目	8	8	10	9			
	科	18	17	21	19			
	種	35	37	37	26			
主な出現種 (個体数、 組成比率)	ウミネコ	(35.4%)	ヒドリガモ	(18.1%)	トウネン	(32.2%)	ムクドリ	(42.6%)
	トウネン	(27.2%)	ホシハジロ	(11.0%)	コアジサシ	(8.4%)	スズメ	(12.3%)
	カワウ	(8.8%)	キンクロハジロ	(7.6%)	シロチドリ	(7.3%)	ツバメ	(12.3%)
	カルガモ	(7.1%)	カワウ	(6.1%)	アジサシ	(4.5%)	コアジサシ	(9.6%)
	スズメ	(4.5%)	スズメ	(5.0%)	ハシブトガラス	(4.3%)	ドバト	(6.5%)

調査地点		a	b	c	d	合計
平成9年8月	種類数	16	7	25	10	35
	個体数	103	524	281	91	999
平成10年2月	種類数	13	17	27	10	37
	個体数	321	456	964	107	1,848
平成10年5月	種類数	19	16	27	17	37
	個体数	73	106	517	126	822
平成10年6月	種類数	15	10	19	15	26
	個体数	130	138	175	109	552
年間	種類数	32	32	47	27	60
	個体数	627	1,224	1,937	433	4,221



## II 事後調查結果

陸域生態系（鳥類）様式第1号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（種別出現状況）[平成29年5月分]

調査日：平成29年5月11日

目	科	種	区分	地点別出現個体数				計	
				a	b	c	d		
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥		1			1	
ペリカン	ウ	カワウ	留鳥	3	10		15	28	
コウノトリ	サギ	ダイサギ	留鳥		1	2		3	
		コサギ	留鳥		2			2	
		アオサギ	留鳥			2	1	3	
カモ	カモ	ツクシガモ	冬鳥		12			12	
		マガモ	冬鳥		2			2	
		カルガモ	留鳥		3	5		8	
		コガモ	冬鳥		7			7	
		ホシハジロ	冬鳥		5			5	
		キンクロハジロ	冬鳥		3			3	
		スズガモ	冬鳥		89			89	
タカ	タカ	トビ	留鳥				2	2	
ツル	クイナ	バン	留鳥		5			5	
		オオバン	留鳥		6			6	
チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥			2		2	
		オオメダイチドリ	旅鳥			3		3	
	シギ	トウネン	旅鳥		3	15		18	
		ウズラシギ	旅鳥		1			1	
		ハマシギ	冬鳥		1	2		3	
		オバシギ	旅鳥			1		1	
		アオアシシギ	旅鳥			3		3	
		キアシシギ	旅鳥		3	10		13	
		イソシギ	留鳥	1	1	1		3	
		ソリハシシギ	旅鳥			3		3	
		オグロシギ	旅鳥		2			2	
		ダイシャクシギ	旅鳥			2		2	
		チュウシャクシギ	旅鳥	10	1	5		16	
	セイタカシギ	ソリハシセイタカシギ	迷鳥		1			1	
	カモメ	ユリカモメ	冬鳥（一部留鳥）	3	10			13	
		セグロカモメ	冬鳥				1	1	
		ウミネコ	留鳥				1	1	
		アジサシ	旅鳥	34	100		72	206	
		コアジサシ	夏鳥	14	9	3	15	41	
ハト	ハト	ドバト	移入種	3				3	
		キジバト	留鳥	2				2	
スズメ	ヒバリ	ヒバリ	留鳥		2			2	
	ツバメ	ツバメ	夏鳥	3	5	3		11	
	セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	1	1			2	
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	2				2	
	ウグイス	ウグイス	留鳥	1				1	
		センダイムシクイ	夏鳥			1		1	
		セッカ	留鳥	1	2	1		4	
	メジロ	メジロ	留鳥				2	2	
	ハタオリドリ	スズメ	留鳥	2	7	3	3	15	
	ムクドリ	ムクドリ	留鳥	1	2	2		5	
	カラス	ハシブトガラス	留鳥	1	6	1	1	9	
合計（9目20科47種）				目数	4	7	4	5	9
				科数	11	15	10	7	20
				種類数	16	31	22	10	47
				個体数	82	303	70	113	568

注) 1. 分類及び配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リストー平成28年度生物リスト」（国土交通省 2016）に従った。

2. 渡りの区分は、「大阪府鳥類目録2001」（財）日本野鳥の会大阪支部、2002）に従った。

陸域生態系（鳥類）様式第2号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（主な出現種の構成割合）[平成29年5月分]

調査日：平成29年5月11日

区分		地点別出現個体数				
		a	b	c	d	計
出現 状況	目	4	7	4	5	9
	科	11	15	10	7	20
	種	16	31	22	10	47
出現個体数		82	303	70	113	568
主な出現種  (個体数、 組成比率)	アジサシ (34羽、41.5%)	アジサシ (100羽、33.0%)	トウネン (15羽、21.4%)	アジサシ (72羽、63.7%)	アジサシ (206羽、36.3%)	
	コアジサシ (14羽、17.1%)	スズガモ (89羽、29.4%)	キアシシギ (10羽、14.3%)	カワウ (15羽、13.3%)	スズガモ (89羽、15.7%)	
	チュウシャクシギ (10羽、12.2%)	ツクシガモ (12羽、4.0%)	カルガモ (5羽、7.1%)	コアジサシ (15羽、13.3%)	コアジサシ (41羽、7.2%)	
	カワウ (3羽、3.7%)	カワウ (10羽、3.3%)	チュウシャクシギ (5羽、7.1%)	スズメ (3羽、2.7%)	カワウ (28羽、4.9%)	
	ユリカモメ (3羽、3.7%)	ユリカモメ (10羽、3.3%)	オオメダイチドリ (3羽、4.3%)	トビ (2羽、1.8%)	トウネン (18羽、3.2%)	
	ドバト (3羽、3.7%)		アオアシシギ (3羽、4.3%)	メジロ (2羽、1.8%)		
	ツバメ (3羽、3.7%)		ソリハシシギ (3羽、4.3%)			
			コアジサシ (3羽、4.3%)			
			ツバメ (3羽、4.3%)			
			スズメ (3羽、4.3%)			

注) 表中の主な出現種は、地点別の優占種上位5種を示した。

陸域生態系（鳥類）様式第3号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（科別出現状況）[平成29年5月分]

調査日：平成29年5月11日

調査地点		a		調査地点		b	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	カモメ	3	62.2	1	カモ	7	39.9
2	シギ	2	13.4	2	カモメ	3	39.3
3	ハト	2	6.1	3	シギ	7	4.0
4	ウ	1	3.7	4	クイナ	2	3.6
4	ツバメ	1	3.7	5	ウ	1	3.3
6	ヒヨドリ	1	2.4	6	ハタオリドリ	1	2.3
6	ウグイス	2	2.4	7	カラス	1	2.0
6	ハタオリドリ	1	2.4	8	ツバメ	1	1.7
9	セキレイ	1	1.2	9	サギ	2	1.0
9	ムクドリ	1	1.2	10	ヒバリ	1	0.7
9	カラス	1	1.2	10	ウグイス	1	0.7
				10	ムクドリ	1	0.7
				13	カイツブリ	1	0.3
				13	セイタカシギ	1	0.3
				13	セキレイ	1	0.3

調査地点		c		調査地点		d	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)	順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	シギ	9	60.0	1	カモメ	4	78.8
2	カモ	2	7.1	2	ウ	1	13.3
2	チドリ	2	7.1	3	ハタオリドリ	1	2.7
4	サギ	2	5.7	4	タカ	1	1.8
5	カモメ	1	4.3	4	メジロ	1	1.8
5	ツバメ	1	4.3	6	サギ	1	0.9
5	ハタオリドリ	1	4.3	6	カラス	1	0.9
8	ウグイス	2	2.9				
8	ムクドリ	1	2.9				
10	カラス	1	1.4				

注) 優占率は四捨五入した値を表示しており、合計は100.0%にならないことがある。